

厳寒期がジャンボタニシの防除適期です!!

本年度、県南部の一部地域で和名:スクミリンゴガイ (通称:ジャンボタニシ) によって激しく食害され、イネが株ごとなくなる被害が散見されました (図1)。

水田で越冬するジャンボタニシは、土中に浅く潜り込んでいます (図2)。県南部地域で、このような貝がいる水田では、特に冬期の対策を徹底してください。



図1 ジャンボタニシの食害により 欠株が生じた水田
図2 土中に浅く潜り越冬中のジャンボタニシ

【ジャンボタニシの厳寒期防除を徹底しましょう】

ジャンボタニシは寒さに弱いので、厳寒期に水田を浅く表層 5 cm 程度を削るように数回耕耘することで、寒さにさらし、貝を破碎して、水田で越冬する貝を減らすことができます。耕耘は尾輪を装着し (図4)、速度をゆっくり、ロータリーの回転を早めにして丁寧に耕す (図5) ことでより高い効果が得られます。

厳寒期が防除適期です。是非行いましょう。

<防除上の参考事項>

- 1 ジャンボタニシは主に用水路や水田で越冬する。
- 2 水田では浅く土中に潜り込んで越冬するが、マイナス 3℃ の条件下では 2～3 日でほとんどの貝が死滅する。
- 3 田植後 3 週間までのイネを食いちぎったり、水面に浮かぶ葉を引き込むように食害し (図3)、田植後の水深が 4 cm を超えると被害が増加する。
- 4 岡山県植物防疫協会のチラシ「スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) がいませんか?」参照 (別添)



図3 イネを食害しているジャンボタニシ



図4 尾輪の装着 (矢印)



図5 厳寒期の水田の耕耘によるジャンボタニシの防除

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

